

「香川県オリーブの会」は ひきこもりの子どもを持つ親(家族)の会であり、

ひきこもり当事者、その親・家族に対して、当事者の自立、家族間の連携を図りつつ、ひきこもり問題への社会的理解、行政支援を求め福祉の増進をめざし活動しています。



活動内容

月例会

毎月1回開催(専門家及び体験者による講演・講話、グループカウンセリング、ビデオ学習、グループ別話し合い、本部機関紙「旅立ち」他各種情報提供など)

居場所

若者が第一歩を踏み出す仲間作りの場(気軽に集まり、安心できる若者の集い<ポパイの会>の開催、他県の若者との交流の場、パソコン教室など)

専門家による個人相談、家族相談、会員同士の交流の場として使用

【居場所住所】高松市今新町4番地20

相談・訪問活動

訪問サポート士・ひきこもり支援相談士・ひきこもりサポーター(県登録者、KHJピアサポーター)等が研鑽を積み、相談・訪問活動を行っています。

※ピアとは仲間(同じ体験、経験をもつ人)

親の学習会

我が子の快復(回復)を他人に任せない。我が子の責任者は親である。親は他人の手を借り勉強して子を快復(回復)させていく。

「ひきこもり」について

簡単 Q&A

「ひきこもり」は、どのような状態？

簡単に説明すると、「6ヶ月以上社会参加していない」、「非精神病性の現象である」、「外出していても対人関係がない」場合をいいます。

「ひきこもり」は何人くらい居るの？

推計数は、全国で約26万世帯(厚労省)とも70万人(内閣府)とも言われているので、香川では2千人以上はいるのではないかと思います。

親の平均年齢、子の平均年齢は？

平成24年度の調査では、親も高齢化、子も高年齢化していて、「父親67.1歳」、「母親61.8歳」、「男性33.3歳」、「女性32.3歳」でした。

※KHJ親の会「ひきこもり」の実態に関する調査報告書⑩より

「ひきこもり」期間は何年くらい？

平成24年度の調査では、「平均10.5年」、「最長36年」でしたが、家族と会話は出来るが家から出られない人、一人に限られたところの外出しか出来ない人も含まれています。

※KHJ親の会「ひきこもり」の実態に関する調査報告書⑩より

「ひきこもり」が長期化した要因は？

いくつか挙げると、「親も当事者も共通する価値観(世間体)に縛られていること」、「当事者はわかっているのに、動けない現実を抱えている」、「親たちが世間体を気にして、家庭の中だけで何とかしようとする事」もひきこもりを長引かせている。

※精神科医 中垣内正和 先生 著書「はじめてのひきこもり外来」より

なぜひきこもるの？

ひきこもったきっかけは様々ですが、「自分が傷つかなないように自分を守るため」、「自分再生のため」、「大学進学後にエネルギーが枯渇し仕事の世界に入れれない」、「社会が怖い」、「職場の人間関係がうまくいかない」、「他人が怖いから」など。

ひきこもりの相談はどこへいけばいいの？

わからない場合は、まず香川県ひきこもり地域支援センター「アンダンテ」(香川県精神保健福祉センター内 電話087-804-5115)で聞いてください。

「アンダンテ」の専任コーディネーターが、各関係機関を紹介してくれます。

高松市在住の方は高松市保健センター(087-839-2363)などがあり、適切に対応していただけます。

ひきこもりの「家族の会」は、何をしているの？

会の名称は、「NPO法人KHJ香川県オリーブの会」といいます。ひきこもり者を持つ親たちが定期・不定期を問わず共に集い語り合う他、講演会開催、訪問活動、親の学習会を実施、また当事者の集い「ポパイの会」を開催しています。(『活動内容』をご覧ください。)

※ K(家族)、H(ひきこもり)、J(ジャパン)